

# 低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発（新規）

## 1. 趣旨

近年我が国では、少子高齢化などの社会構造の変化に伴い、調理済み食品の利用や外食機会の増加等「食の外部化」が進んでいる。

しかしながら、こうした食生活の変化に対応した加工・業務用農産物の供給においては、輸入農産物が価格や安定供給あるいは一部品目においては加工適性等の面で優位性を持つことから増加傾向にあり、国内農産物はニーズに十分対応し切れていない状況にある。

他方、加工・業務用農産物の品質面については、食感等のセンサー等や新たな測定技術の開発、呈味成分となる2次代謝産物、加工適性に関連するタンパク質、デンプン構造等の物質レベルの解析が進んでいる。

そのため、これらの知見やDNAマーカーを活用した品種開発を行うとともに、機械化一貫体系やコスト低減に有効な栽培体系の開発を図り、国産の加工・業務用農産物の品質並びに生産性の向上に貢献しようとするものである。

## 2. 内容

### (1) 輸入品に対して優位性を発揮できる高品質な加工・業務用農産物の開発

最適なタンパク質組成を持つ豆腐加工適性の高い大豆や、抗酸化活性の高い有色大豆、醸造適性の高い甘しょ周年供給が可能なチップ用馬鈴しょ等新しい特性を持つ畑作物、無菌包装米飯等加工用途に最適なアミロース含量を有する多収稲、サンドイッチ用のスライスに適したトマト、組成制御等による新たな食味食感を有する野菜の開発、カット野菜・フルーツの加工後の鮮度保持技術等を行う。

### (2) 超省力・低コスト化技術確立による生産性の飛躍的向上のための技術開発

種子の水分調節による大豆の出芽安定技術、霜害回避のコーティング種子によるてんさい高精度直播技術、加工用甘しょ、馬鈴しょの貯蔵技術の開発、機械化一貫体系によるカット用キャベツ生産技術、トマトの多段取技術等を行う。

### (3) 研究機関、生産者、食品産業の共同（モデルコンソーシアム）による加工・業務用農産物の利用技術の開発

新規育成品種・系統について、生産現場での高品質安定栽培技術、その生産物を利用した加工利用技術を各機関の連携により総合的に開発を行う。

## 3. 実施主体

独立行政法人、都道府県、大学、民間企業

## 4. 実施期間

平成18年度～平成22年度

## 5. 平成18年度概算決定額

508（0）百万円

【農林水産技術会議事務局 地域研究課】